川口市立芝南小学校　桜「太白」植樹

桜「太白」

イギリスの桜守、コリングウッド・イングラムと川口市出身の桜研究家、舩津静作との桜の物語

イングラムが撮影した舩津静作

晩年のイングラム

川口市立芝南小学校の正門の近くに植樹される、「太白」は、英国の桜研究家イングラムの庭園にあった桜です。1926年（大正15年）に彼が来日した時に舩津静作所蔵の桜の絵をみて自宅の庭にある桜と同じものであると認めました。当時、この桜は日本では絶滅してしまったと思われていました。1932年（昭和７年）に京都の香山益彦のもとにイングラムから接ぎ穂が送られてきました。この接ぎ穂は京都の園芸家、第14代佐野藤右衛門が受継ぎ、これを育成したものが元公爵　鷹司信輔により「太白」と命名されました。（「財団法人日本花の会」HPの「太白」についての説明文より）

「舩津静作と桜の物語」

この度、川口市立芝南小学校に、川口市出身の桜の研究家である舩津静作と英国の桜研究家コリングウッド・イングラムとの縁につながる「太白」が植樹されることになりました。舩津静作については、この「太白」についての物語の他に、明治時代の末に日米友好のためにワシントンに贈られた桜についての物語があります。

この機会に、舩津静作と、コリングウッド・イングラムについてご紹介します。

舩津静作は、1984年（明治７年）に東京府南足立郡沼田村の分家の舩津家に養子に入りました。

1886年（明治１９年）、舩津静作が29歳のとき、当時の沼田村の戸長であった清水謙吾の発案で、荒川堤の補修工事に際して堤上に桜を植えることになりました。桜は、駒込傳中の植木屋高木孫右衛門が保存していた里桜の名品を植えることになりました。舩津静作はこの作業に率先して加わり、植樹総数3225本、現在の川口市のはずれあたりから足立区西新井にかけて、里桜の一大並木ができあがりました。この桜並木の特色は、里桜の名品（78品種）を集めたということで、五色桜の名の通り、他に見られない特色をもっていました。

舩津静作は荒川堤の桜並木ができてから、熱心にその種別、分類、研究を行い、明治36年に初めて桜博士 三好 学にめぐり合って、その桜人生が花開くこととなりました。

舩津静作の功労の一つに、アメリカ合衆国ワシントンへの桜の寄贈があります。このとき、荒川堤の桜から採取した桜の苗が、1912年（明治４５年）３月にワシントンのポトマック川の河畔に植樹されました。舩津静作はワシントンの桜の話の影の功労者として伝えられることとなります。その後、桜の苗木の育成には、川口市峯の松本伝太郎や安行原の小清水亀之助が舩津静作の協力者となりました。

寄贈した桜の品種と本数

染井吉野 1,800本　白雪 130本　御車還 20本　有明 100本
福禄寿 50本　関山 350本　普賢象 120本　駿河台 50本
御衣黄 20本　上匂 80本　滝匂 140本　一葉160本　計3,020本

舩津静作

イギリスのコリングウッド・イングラムさんの屋敷

↑1940年頃のコリングウッドさんの屋敷

The Grange（ザ・グレンジ）　⇒
コリングウッドさんの屋敷（ザ・グレンジ）の門

イングラムさんの屋敷にある、日本に贈られた「太白」の原木

チェリー・イングラム　日本の桜を救ったイギリス人　阿部菜穂子　岩波書店　2016年より抜粋

「イギリスの桜守　コリングウッド・イングラム」

コリングウッド・イングラムは、日本で絶滅したと見られる品種の「太白」を昭和の初めに日本へ里帰りさせた人物です。

イングラムは、新しい家に引っ越したとき、その庭に植えられていた桜の大木２本が彼の目にとまりました。その美しさに感銘を受けたイングラムは、ヨーロッパではまだ知られていない日本の桜を収集して庭に植樹し、研究しようと思い立ちました。

その後、猛烈な集中力と実行力で桜を収集。日本や米国から多数の品種を輸入し、知人・友人から譲り受けるなどして集めた結果、7年後には１００種類を超すコレクションをもつ壮大な「桜園」が誕生しました。

中でも、今回、芝南小学校に植樹される「太白」は大輪一重の品種で、純白の花は直径が5～6センチもあり、優雅でひそやかな美しさをもち、イングラムのお気に入りの桜でした。

イギリスで可能な限りの桜を入手したイングラムは、より珍しい桜を求めて 1926年（大正１５年）、日本へ「桜行脚」に行くことを決意しました。

その桜行脚のとき、イングラムは東京の五色桜の桜守、舩津静作と出会い、太白の絶滅を知らされました。彼は太白がベネンドンの自分の庭園にあることを舩津氏に知らせ、里帰りさせることを約束したのです。

帰国後の 1927年（昭和２年）、イングラムは太白の穂木を採取し、京都の桜守、第14代佐野藤右衛門に船で送りましたが、穂木は枯れてしまい、失敗。

当時は飛行機もなく、イギリスから長い月日をかけて、大海原を遥々、船で運ぶしかなかったのです。その後、５年間の試行錯誤の挑戦を経て、穂木をジャガイモに突き刺して、シベリア鉄道経由で送ったところ、成功したのです。

1932 年（昭和７年）に京都御室の香山益彦のもとに穂木を送り、これを第15代佐野藤右衛門が接ぎ木して、太白は祖国日本に甦りました。

2017年（平成29年）4月4日（火曜日）　日版　26

91年前の約束 墓前に

あなたの見たかった幻の花です

戦前、現在の足立区に住み、花見の名所「荒川の五色桜」で桜守をしていた舩津静作さん（1858～1929年、写真❶、舩津家提供）の墓前に今春、一輪の白い桜が供えられた。英国から里帰りした「太白」だ。91年前、英国の桜守と交わした約束が、研究者の手で果たされた。

時超え一枝 太白桜

荒川と契りし英の桜守

舩津さんの墓（白い花）

足立区

荒川区

文と写真・神谷円香／紙面構成・田髙毅

背景の写真は、英国東部のイングラム家の庭園だった敷地に咲く太白＝2015年4月（阿部早穂子さん提供）

東京新聞（2017年４月４日朝刊）より